

見学調査報告書

テーマ : 外国にルーツを持つ子供たちに学ぶ
ゼミ名 : 栗原 文子ゼミ
調査日 : 2019年10月24日(木)、28日(月)、30日(水)
調査先 : YSCグローバルスクール
授業科目名 : ベーシック演習Ⅱ
参加学生数 : 16名(1年)

調査の趣旨(目的)

外国人労働者の増加などに伴い、日本の小・中学校で学ぶ外国にルーツを持つ子どもたちが増えている。2016年5月現在、国公立学校(小・中・高・中等教育学校・特別支援学校)に在籍する外国人児童生徒は約9万人であり、2012年以降増加傾向にあるが、日本語を適切に学ぶ環境に恵まれず、学力が伸びない児童・生徒も多くいる。さらに、日本の学校になじめなかったり、いじめられたりして、不就学になるケースも多い。多摩市にあるYSCグローバルスクールはそのような児童・生徒たちを受け入れ、日本語の支援だけでなく、学校の授業の補習をする塾の役割も担っているNPO団体である。ベーシック演習では、異文化理解や多文化共生をテーマとして学んできたが、今回の見学調査において、スクールへ通う子どもたちへのインタビューや交流を行い、身近なコミュニティにいる文化背景の異なる子供たちについて理解を深め、多文化社会の課題を探る。

調査結果

学生たちは、3つのグループに分かれ、YSCグローバルスクールを訪問した。小学生20分、中学生20分、計40分程度、子供たちにインタビューしたり、ゲームを通じて、交流を行った。児童・生徒の中には、日本語が流暢でも、日本の学校では友達が作りづらかったり、部活の人間関係が難しかったり、学校の先生の指示が適切でないと感じるなど、さまざまな葛藤を抱えていることを聞きとることができた。どのような質問をすれば相手が心を開いてくれるのか、グローバルスクールの先生から学んだ学生も多かった。また、用意してきた質問が使えないと感じ、文献などでイメージしていた様子と実際の子供たちが異なることにも気づいた学生もあり、実際に足を運び、対話することの重要性を学ぶことができた。



スクールの子供たちと①



スクールの子供たちとの交流①



スクールの子供たちと②



スクールの子供たちとの交流②